JP 02-03822) B

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

64-076866 (A)

(43) Date of publication of application: 22.03.1989

(51)Int.Cl.

A61M 1/14

A61M 1/14

(21)Application number: 63-221083

(71)Applicant: NIPPON MEDICAL ENG KK

(22)Date of filing:

02.09.1988

(72)Inventor:

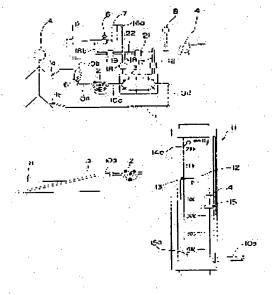
MINAMI HIROMICHI

(54) AUTOMATIC DIALYTIC APPARATUS

(57) Abstract:

PURPOSE: To achieve labor saving to a large extent by almost omitting the frequent measurement of the blood pressure of a patient and the adjustment of a water removing speed at that time, by providing a shortcircuit bypass passage equipped with an opening and closing valve for shortcircuiting the upstream side of the opening and closing valve provided to the feed-in passage of a dialysing fluid and the upstream side of the dialysing fluid pump of discharge passage.

CONSTITUTION: Usually, dialysis is performed by the recirculation of a definite amount of blood by a blood pump 2 and ultrafiltration pressure and water removal also advances. When the water removal further advances and the pressure of the blood in a blood vessel having a cannula 1a thrust therein is lowered, the pressure in a tube 10a is also lowered and the measuring needle 13 of a pressure detector 11 moves downwardly and, when it becomes equal to the set value of the first setting needle 14, the first detection signal is outputted. Solenoid opening and closing valves 18, 19 are closed by said signal and the ultrafiltration pressure in a dialyzer 3 is lowered to almost zero and, at the same time, a solenoid opening and



closing valve 21 is opened and a dialysing fluid is directly discharged from a shortcircuit bypass passage 22 without passing through the dialyzer 3 to stop the advance of the water removal. During this time, the dialysing fluid in the dialyzer 3 is replaced within an extremely short time.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

⑩日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公告

骞(B2) ⑫特 許公

平2-38227

®Int. Cl. 3 A 61 M

識別記号

庁内整理番号

2969公告 平成 2年(1990) 8月29日

1/14

3 5 5 3 5 7

7180-4C 7180-4C

発明の数 1 (全7頁)

会発明の名称 自動透析装置

> 20特 顧 昭63-221083

平1-76866 <u>694</u>

顧 昭58(1983)3月31日 忽出

❸平1(1989)3月22日

願 昭58-57147の分割 砂特

個発

博 迪 兵庫県宝塚市逆瀬台 4丁目7番10号・

日本メディカルエンジ 顛 创出 人

兵庫県尼崎市西難波町 4 丁目 6 番28号

ニアリング株式会社

20代 理

弁理士 藤川 忠司

塞 杳 官 网参考 文献

羲 主代 静

特開 昭59-2748(JP,A) 特開 昭50-141898 (JP, A) 特開 昭51-51192(JP,A)

実開 昭58-43450 (JP, U)

の特許請求の範囲

透析器を用いて透析液側の陰圧によつて血液 透析を行う装置であつて、

血液を該透析器へ送り込む血液ポンプと;

圧力測定部および所定圧力値の設定部を有し、5 上記血液ポンプよりも上流側に設置されて、該上 流側の血液の圧力を測定すると共に、この測定圧 力が設定圧力以下になった際に検知信号を出力す る圧力検知器と;

透析器に接続された透析液の給入路および排出 10 路にそれぞれ設けられた開閉弁と;

上記排出路に設けられた透析液を吸引排出する 透析液ポンプと;

上記給入路の開閉弁よりも上流側に設けられて 給入路側の透析液流量を制限して透析器内に陰圧 15 による限外濾過圧を発生させる透析液紋り手段 と;

圧力検知器の検知信号に基づき上記両開閉弁を 閉鎖する弁開閉制御手段と; を具備してなる自動透析装置。

2 透析液の給入路の開閉弁よりも上流側と排出 路の透析液ポンプよりも上流側とを短絡する開閉 弁付きの短絡パイパス路が設けられ、前記弁開閉 制御手段が該バイバス路の開閉弁を透析液の給入

路および排出路の開閉弁とは逆の開閉状態に作動 させるものである特許請求の範囲第1項記載の自 動透析装置。

発明の詳細な説明

(発明の対象、産業上の利用分野)

本発明は、陰圧法によって血液透析を行う際に 用いる自動透析装置に関し、血液透析の自動化・ 省力化に利用される。

(従来技術)

人工賢職装置(透析装置)を用いて行う血液透 析は、人体が賢不全に陥つた際に、賢職に代わり 体内の老廃物を排除し、または必要なものを取り 入れて血液の浄化を行うために広く行われてい

第1図は従来の透析装置の一例を示すもので、 これは陰圧法によるものである。第1図におい て、軀体Aの四肢の血管にカニユーレーa, 1 b を穿刺し、血液を体外循環させる血液回路1の出 入口とする。血液ポンプ2によつてカニューレ1 20 aから流出する血液の一定流量を透析器3に供給 するとともに、透析液ポンプ4による吸引圧力に て給入路5aより透析液を透析器3内に供給し、 透析後の透析液を排出路5 bより排出する。しか して、透析器 3 内の限外濾過は、給入路 5 a 側の 流量調整弁6を流量計7を目安として絞り調節 し、透析器3への透析液の吸入側の流量を排出側 よりも小さくして透析器3内の透析液を適当な陰 圧にすることによつて発生させる。 8 は透析液の 吸込側の圧力を測定する圧力計である。透析器 3 の血液の入口には、エアーチャンパー 9 a 及び圧 力計96を設けておき、血液側の圧力を知る目安 とする。

ところで、賢職の主な機能は尿を作ることであ るが、この尿の大部分は水分であり、したがつて 血液透析においては血液の中から水分を抜きとる こと、いわゆる除水を行うことが重要な課題とな る。体内の水は細胞内、細胞間、血管の順に経由 して血液内に移行するが、この移行速度に見合つ は患者によつて異なり、また同一の患者であつて も日々変化してその把握は非常に困難である。除 水を規定する要因を列挙すると、限外濾過圧、透 析器の透析面積と膜の種類、透析時間、血液流量 及び透析液と血液間の浸透圧差等がある。

これらの要因のうち、透析器の透析器面積と膜 の種類は、使用する透析器によって決定されるも ので種々の透析器のうちから最適のものを選べば よい。透析液と血液間の浸透圧差は、実際には除 水にそれほど有効に働かない。透析時間は、長時 間である程除水量も多いが、その間患者を拘束し かつ看護する者が監視と必要な処置を行わねばな らないので、短時間であるにこしたことはない。 したがつて、実際の血液透析においては、限外濾 過圧と血液流量を調節して除水速度をできるだけ 速くし、一定の時間内に目的の量の除水を行うこ とが必要となつてくる。その為には、患者から安 定した体外循環血液量が得られることが大前提で あるが、この血液流量は患者によつてそれぞれ限 の不足に起因する血圧低下、又は体外循環を行う ための血液導出入装置 (ブラツドアクセス) のト ラブル等により、長時間にわたり安定した体外循 環血液量を得ることは極めて困難である。特に除 水に起因する血圧低下を起こした場合の患者は、 嘔吐等の不快症伏をもよおす他、四肢の痙攣を起 こして放置すると長時間持続し、最悪の場合はシ ヨックの為死に至ることもあるので、血圧低下の 防止には細心の注意を払わねばならない。しかし

また、血液低下を恐れて除水速度を遅くしすぎる と、除水が充分に行われずに体内に残留して循環 器系に大きな負担となる。

従来においては、除水速度を速めしかも血圧低 下を起こさないようにするために、長期透析で様 子の分かつている安定期の症例でも透析開始直後 で15~30分毎、中途で30~60分毎、終了前で15~ 30分毎の定期血圧測定を行つており、透析に導入 されたばかりの症例や循環血液量の少ない小児、 または老齢や糖尿病等で動脈硬化が強く急激に血 圧低下または冠不全状態に陥りやすい患者等で は、定期血圧測定の回数をさらに上回る頻度の血 圧測定を行わねばならず、その毎回の測定の結果 に応じて除水速度を調整している。通常、これら た速度の除水を行う必要があり、しかもこの速度 15 の作業は看護婦が行つており、看護婦は上述した 頻繁な血圧測定と除水速度の調整作業に追われ、 また万が一患者が血圧低下を起こした場合には補 液、薬剤注入、温湿布または汚物処理等の事後処 理に忙殺されることとなる。看護婦1名が4~5 20 名の患者を受持つている現況を考えると、これら の作業が全看護業務中に占める割合は非常に高 く、看護婦に重労働を強いる結果となつている。 このように、従来の透析装置においては、良好 な条件で血液透析を行うために必要な複数の作業 を看護婦等の人に頼つており、当然に人的ミス発

透析に要する費用の増大等が問題となつていた。 これらの難点を多少でも軽減させるために、例 えば特開昭51-51192号や特開昭50-141898号に 30 開示されるように血液回路に、血液ポンプの上流 側の血液の圧力を検出する圧力検知器を設け、該 検知器によつて血液圧力の最大値と最小値とを連 続して記録すると共に、圧力が一定値を超えれば 警報ベル等の警報信号を発信させるようにした装 界があり、また急速な除水による体内循環血液量 35 置が提案されている。この透析装置によれば、患 者に対する直接の血圧測定作業を必要としないか らそれだけ作業が軽減されるが、単に血液圧力を 記録し、かつ警報信号を発信させるにすぎないか ら、異常事態における処置即ち血圧降下を阻止 40 し、これを正常値に復帰させるための複雑な除水 速度の調整作業は、矢張り看護婦等の手作業で行 わなければならず、大幅な作業改善につながらな

生の機会の増加、看護婦の重労働と不足及び血液

い欠点がある。 (発明の目的)

本発明は、上述の事情に鑑みた発明者の永年の 研究の結果成されたもので、患者に対する頻繁な 血圧測定やその度毎の除水速度の調整のほとんど が省略でき、したがつて大幅な省力化の行える自 動透析装置を提供することを目的とする。

(発明の構成)

本発明は、透析器を用いて透析液側の陰圧によ つて血液透析を行う装置であつて、血液を該透析 器へ送り込む血液ポンプと、圧力測定部および所 定圧力値の設定部を有し、上記血液ポンプよりも 上流側に設置されて、該上流側の血液の圧力を測 定すると共に、この測定圧力が該測定圧力以下に なつた際に検知信号を出力する圧力検知器と、透 析器に接続された透析液の給入路および排出路に られた透析液を吸引排出する透析液ポンプと、上 記給入路の開閉弁よりも上流側に設けられて給入 路側の透析液流量量を制限して透析器内に陰圧に よる限外滤過圧を発生させる透析液紋り手段と、 鎖する弁関閉制御手段とを具備してなる自動透析 装置に係る。

また、本発明では、上記自動透析装置におい て、透析液の給入路の開閉弁よりも上流側と排出 路の透析液ポンプよりも上流側とを短絡する開閉 25 弁付きの短絡パイパス路が設けられ、前記弁開閉 制御手段が該バイバス路の開閉弁を透析液の給入 路および排出路の開閉弁とは逆の開閉状態に作動 させるものである構成を一つの好適態様としてい る。

(実施例)

まず本発明の原理を説明すると、透析中におけ る従来の血圧測定に代えて、本発明においては血 液ポンプ2の上流側の血液の圧力を圧力検知器に より検知する。

すなわち、本発明の原理を説明するための第2 図において、静脈血管B内は通常正の静脈圧bを 有しており、静脈血管B内に穿刺したカニユーレ 1a、チユーブ10を介して血液ポンプ2で血液 を吸引すると、カニユーレ1aによつて、カニユ ーレ 1 a の有効面積にほぼ反比例し血液流量すな わち血液ポンプ2の回転数にほぼ比例する圧力降 下でが生じる。したがつてチューブ10a内の血 液の圧力は(b-c)となり、これは一般に負圧

であって正常な透析が行われている間はほぼ一定 である。除水が進行すると血管内の血液量が減少 するが、通常は動脈の収縮等により血圧が低下し ないように維持される。ところが、血管の収縮能 5 力を超えた除水が行われると、静脈圧 b は減少 し、零または負圧となる。したがつてチューブ1 0 a内の圧力(b-c)はさらに負圧側に傾くの で、この圧力が一定値以下になつた時点で限外濾 過圧を零近辺にして除水を中止することにより、 **鰛体全体の血圧低下を防止することができる。**

本発明の第1実施例を第3図に示す。図におい て、エアーチャンパー 9 はカニユーレ 1 a と血液 ポンプ2との間を接続するチユープ10aの途中 に設けられており、エアーチヤンパー 9 には圧モ それぞれ設けられた開閉弁と、上記排出路に設け 15 ニタチューブ10 bを介して圧力検知器11が接 続されている。この圧力検知器11は第4図に示 すごとく、適当な負圧から正圧に至るまでの目盛 を有した目盛板12上を圧モニタチユーブ10b により加えられた圧力に応じて測定針 1 3 が移動 圧力検知器の検知信号に基づき上記両開閉弁を閉 20 し、また第一設定針 1 4 と第二設定針 1 5 及び第 一表示灯 1 4 a と第二表示灯 1 5 a を有してい る。第一設定針14及び第二設定針15は目盛板 12上の任意の位置に設定可能であり、各設定位 置と測定針13の位置とが一致するとそれぞれ第 一検知信号Rまたは第二検知信号Sを出力すると ともに、第一表示灯14aまたは第二表示灯15 aが点灯するように構成されている。ここに用い るチューブ10a,10bは負圧が加わるので負 圧によつても変形しない程度の堅い材質のものが 30 圧力を正確に検知できて好ましい。

透析器3は従来から存在する周知のもので、そ の血液入口にはチューブ 10 cを介して前述の血 液ポンプ2が、また血液出口にはチユーブ10 d を介してカニユーレ1bに接続されている。

一方、透析器3の透析液の給入路18及び排出 路17の途中で透析器3との接続部分に近い位置 には、それぞれ電磁開閉弁18,19が設けられ ている。そして、給入路18の電磁開閉弁18の 上流側は、周知の流量調整弁 8 及び流量計 7 を備 えた紋り流路16aが接続されており、かつこの 絞り流路16aと並列に電磁開閉弁20を設けた 給入パイパス路16 bが接続されている。

また、給入路16の電磁開閉弁18の上流側と 排出路17の電磁開閉弁19の下流側との間に は、電磁開閉弁21を設けた短絡パイパス路22 が接続されている。。排出路17の短絡パイパス 路22との接続部よりも下流側には、周知の圧力 計 8 及び透析液ポンプ 4 が接続されている。な お、ここに用いる電磁開閉弁18~21は、弁開 閉制御手段の指令に基づく通電のオン・オフによ り流路を開閉する周知の構造のものであり、ステ ンレス製等の耐薬品性のものが好ましい。給入バ イパス路16b透析器3内の透析液を短時間で入 2 は限界濾過圧が零近辺になつている期間に使用 されるもので、共にできるだけ流路抵抗の低いも

透析を行うための透析器3内の限外濾過圧は、 ことによつて発生する。すなわち、透析液側にお いて、両パイパス路16a,22の電磁開閉弁2 0,21の閉鎖下で、透析液ポンプ4を運転して 排出路17に吸引圧力を発生させると共に、給入 路 1 6 側の透析液流量を流量調整弁 6 の絞りによ 20 つて制御して透析器3内の透析液側の所要の陰圧 を発生させる。この時、透析液の給入量は流量計 7により、また給込側の圧力は圧力計 8 により、 それぞれ測定される。

のが好ましい。

次に、圧力検知器 9 の検知信号と、血液ポンプ 25 2、透析液ポンプ4及び電磁開閉弁18~21の 動作状態との関係について説明する。透析中は透 析液ポンプが常に運転されており、正常な透析が 行われている間は、圧力検知器11からの検知信 号はなく、血液ポンプ2は一定回転数で回転し、 透析器3内に陰圧が発生し、弁開閉制御手段によ り電磁開閉弁18,19は開、電磁開閉弁20, 2 1 は閉に維持されて一定流量の透析液が透析器 3に供給されると共に血液中の水分を加えた透析 後の透析液が排出路17より排出されるという除 水状態となつている。圧力が低下して第一設定針 14による第一検知信号Rが出力されると、この 信号に基づいて弁開閉制御手段が電磁開閉弁 1 8, 19を閉、電磁開閉弁21を開に転換作動 し、透析液は絞り流路16aから透析器3を介さ 40 ずに短絡パイパス路22を通つて直接に透析液ポ ンプ4より系外を排出され、透析器3内は透析液 の供給および排出の停止により限界濾過圧が零近 辺に低下するという除水停止状態となる。この除

水停止状態は、圧力が第一設定針 14の設定値よ りもさらに低下した場合も保持され、また、圧力 がすぐに上昇して第一検知信号Rが出力されなく なっても一定時間 (例えば10分間) は保持される よう構成されており、チヤタリング状態の発生を 防止するとともに患者の安全を計つている。この 一定時間をカウントする始期は、第一検知信号R が出力されてからと出力がなくなつてからとの二 法をとりうる。除水停止状態においては、除水は れ替える場合に使用され、また短絡パイパス路2 10 行われないが、浸透圧による物質の移動は行われ ているため、透析液を適当な時間毎に入れ替える ことが好ましい。そのために、弁開閉制御手段に より1分間に1回程度の割合で短時間だけ間欠的 に電磁開閉弁18,19,20が開となると同時 透析器3の透析液側を血液側に対して陰圧にする 15 に電磁開閉弁21が閉となる。この場合、透析液 の入れ替えに要する時間は短い程好ましいが、本 実施例では入れ替え時に給入パイパス路16 bが 開放しているため、通常は1秒乃至数秒程度の短 時間で入れ替えが完了する。

さて、除水を停止したために血液の圧力が上昇 して第一検知信号Rが出力されなくなり、かつ一 定時間経過すると、弁開閉制御手段によつて再び 電磁開閉弁18,19が開、電磁開閉弁21が閉 となつて通常の透析を再開する。

ところで、透析中に何らかの異常により急激に 圧力が低下することが考えられる。例えばカニユ ーレ l a の先端が血管の内壁に吸着し、血液流が 閉塞された状態となる場合がある。この場合には カニユーレ1a及びチユーブ10a内の圧力は急 激に低下し、この状態を長く放置すると血管の内 壁を傷つけるので、血液ポンプ2を停止させる必 要がある。第二設定針15はこの圧力低下を検知 するためのもので、これによる第二検知信号Sに より血液ポンプ2を停止させるほか、電磁開閉弁 18,19等の各機器が安全側に作用するように かつ警報音の発生、表示灯の点灯等を行う構成と する。この第二検知信号Sによつて、看護婦は異 常の発生を知ることができ、迅速、適切な処置を 行つて事故を未然に防止することが可能になる。

上述のように構成された装置の使用方法を説明 する。まず、電磁開閉弁18,19を開、電磁開 閉弁20,21を閉とし、透析液ポンプ4の回転 数と流量調整弁6の紋り度合を透析3内で限外濾 過圧が生じない範囲に調整する。そして血液ポン

プ2が停止している状態で圧力検知器 1 1 によつ て静止時シャント圧Piを測定する。Piは正圧で あつて通常数十mHgである。なお、Pi測定時に は透析液は透析器内に滞留しているだけの非流動 状態としてもよい。次に血液ポンプ2を回転させ るとともに、その回転数を当接透析に必要な血液 流量となるように設定し、このときに圧力検知器 11によつて循環時シャフト圧P₂を測定する。 Pzは、Piからカニューレ1aによる圧力降下を 差引いた値であつても通常負圧である。圧力検知 器 9 の第一設定針 1 2 をP₃=P₂-P₁の値に設定 し、第二設定針 1 3 をP₄=P₃-(50~100) に設 定する。したがつて、P₂は循環時シャント圧P₂ よりもさらに静止時シャント圧Pıだけ低い値と 値となる。次に、流量調整弁6の絞り度合いはこ れと透析液ポンプ4の回転数とを適度に調整し、 陰圧による限界濾過圧を周知の方法で設定する。 例えば2.4ℓの水を6時間で徐水する場合、透析 外濾過圧は100mHgとなる。また当然のことであ るが、患者の血圧その他の状態の測定・検査を行 つておく。

以上のように調整された装置は、血液ポンプ2 通常の透析が行われ、除水も進行する。除水の進 行によつて患者の血液量は減少するが、動脈の収 縮によつてある程度血圧が低下しないように保た れる。しかし、除水がさらに進行し、カニユーレ るとチューブ10a内の圧力も低下し、圧力検知 器11の測定針13が下方へ移動して第一設定針 14の設定値P₂と等しくなれば、第一検知信号 Rが出力される。第一検知信号Rが出力される 内は限外濾過圧が零近辺に低下し、同時に電磁開 閉弁21が開となつて透析液が短絡パイパス流路 22より透析器3を通らずに直接排出されるので 除水の進行は停止する。またこの時一表示灯 1 4 間に1回程度数秒間、電磁開閉弁18,19,2 0が開、電磁開閉弁21が閉となつて大流量の透 析液が流れ、透析器3内の透析液が極く短時間の うちに入れ替わる。

患者の体内の水分が血液中に移行して血液の量 が増加し、血管内の圧力が回復すると第一検知信 号Rが出力されなくなり、かつ一定時間経過して いる場合は電磁開閉弁18,19が開、電磁開閉 弁21が閉に復帰して通常の透析を再開する。し たがつて患者は何ら影響のある血圧低下を起こさ ず、正常な透析を続行することができる。透析中 に何らかの異常によりチューブ 10 a内の圧力が 急激に低下した場合は、第二設定針15がこれを 10 検知して第二検知信号Sを出力し、血液ポンプ2 を停止するとともに警報音及び表示灯により看護 婦に知らせる。

したがつてこの実施例によると、患者の血圧を 頻繁に測定しなくとも、またそのたび毎に限外濾 なり、 P_a は P_a よりもさらに50乃至100和Hg低い 15 過圧を調節して除水速度を調整しなくとも、初期 に設定したとおりの除水が安全に行われる。この 実施例において、除水の進行とともに血液の濃度 が高くなり、カニユーレ**1 a 内の流体抵抗が**増加 して圧力降下が増大する。したがつて、それだけ 器 3 のUFR を $4\pi l/hr/mm$ Hgとすると必要な限 20 チューブ 1 0 a 内の圧力は余計に低下することと なり、血管内の血液の圧力が零になる以前に第一 検知信号Rが出力されるので、より安全である。 患者によりこの血液濃度の増大が見込めない場 合、または種々の事情により別個に安全側に余裕 による一定量の血液循環及び限外濾過圧によつて 25 をもちたい場合は、第一設定針 1 4 をP₃の90~ 95%程度の値に設定すればよい。また、P1を求 めるのに循環時シャント圧P2と静止時シャント EP.を実測してこれらの差を計算したが、簡便 法として、あらかじめ種々の内径のカニユーレに 1 a を穿刺している血管内の血液の圧力が低下す 30 ついて、血液のヘマトリック値及び血液流量値等 をパラメータとする圧力降**下量を求めて一覧表**ま たはグラフにしておき、透析時にはその一覧表ま たはグラフによつてPaを求めることとしてもよ い。本発明の発明者は、P.を求める両者の方法 と、電磁開閉弁18,19が閉となつて透析器3 35 を実施し、これらがほぼ一致することを確認して

本実施例において、圧力検知器 1 1 として前述 したように目盛板上で設定針を**移動させて検知信** 号を得るものを用いたが、圧力測定部及び所定圧 aが点灯する。この除水停止状態において、1分 40 力値の設定部を有して測定圧力が設定圧力以下に なつた際に検知信号を出力するものであればよ く、例示したものに限定されることはない。例え ば圧力を歪ゲージ、または**半導体等**により電気信 号に変换し、電気的に設定した値と測定圧力信号

12

値とを電気的に比較して検知信号を出力するよう に構成してもよい。また、この際に圧力検知器1 1のセンサー部分をチューブ10a、カニューレ 1 a または血液ポンプ 2 等に直接取付けることも 可能である。

本実施例に追加して、透析液を加熱するための ヒータを設ける場合は、透析液の供給停止ととも に当該ヒータをオフとするか、またはヒータをオ フとせず、透析液の過熱を防ぐため透析液が透析 ように構成してもよい。

上記自動透析装置によれば、患者に対する従来 のような頻繁な血圧測定やその度毎の除水速度の 調整が不要なため大幅な省力化が計れる。また、 速度を限度まで充分速くしてクリンアランス及び 除水ともに高い効率が得られる。カニユーレla のトラブル等による異常時には、血液ポンプ2が 停止される等、患者の安全が計られており、監視 の程度を緩めることが可能であるとともにシャン 20 の大幅な軽減等、実用上多大の効果を有する。 トを保護して長寿命化が計れる。除水停止状態に おいても、透析液が一定時間毎に入れ替わるので 除水以外の透析は通常どおり行われる。また透析 液の入れ替えに要する時間は極く短いので、入れ 替え中にも除水はほとんど行われない。また当然 25 に、少量の除水を行う場合でも本装置を使用で き、その場合は安定した透析・除水を安全に行う ことができる。

なお、通常の透析過程ではチユーブ 10 a内の 化に応じて限外濾過圧を加減調整するようにして もよい。例えばマイクロコンピユータを使用し、 患者に関するデータ、装置に使用する機器に関す るデータ、チューブ10a内の圧力値と各種デー ラム等をあらかじめ記憶させておき、チューブ1 O a内の圧力に応じてサーボモータ、サーボ弁等 を作動させて最も安全かつ効率的な透析を行うよ うにしてもよい。

(発明の効果)

本発明によれば、血液ポンプの上流側に、即ち 駆体に近い血液回路途上に血液の圧力を測定する 圧力検知器を設けるため、該検知器によつて患者 の血圧変動を継続的に検知することができ、これ

がために従来のように患者に対する頻繁な血圧測 定が不要となる。

また本発明によれば、透析液側の陰圧によって 透析器内に所要の限外濾過圧を得るが、この透析 5 器に接続された透析液の給入路および排出路に開 閉弁が設けられており、上配圧力検知器が所定圧 力値の設定部を有し、かつ測定圧力が設定圧力以 下になった際に検知信号を出力し、弁開閉制御手 段により検知信号に基づいて上配両開閉が閉止さ 器3の外方を流れるようなバイパス回路を設ける 10 れるようになされているから、血圧の異常降下に ともなつて自動的に限外渡過圧が零近辺となつて 除水速度が調整され、手動操作による面倒な除水 調整作業が不要となり、過度の除水による血圧低 下を未然に防止できて安定した透析を行うことが 過度の除水による血圧低下が防止され、かつ除水 15 できるとともに、その結果除水速度を充分に高く して高い効率を得ることができる。

> したがつて、透析時間の短縮による患者の拘束 時間の短縮、人的ミス発生の軽減による患者の安 全の増大、また省力化と時間短縮による透析費用

また、本発明において、透析液の給入路の開閉 弁よりも上流側と排出路の透析液ポンプよりも上 流側とを短絡する開閉弁付きの短絡パイパス路が 設けられ、前配弁開閉制御手段が該バイバス路の 開閉弁を透析液の給入路および排出路の開閉弁と は逆の開閉状態に作動させるものである構成を採 用すれば、限外濾過圧を零近辺とする除水停止期 間内においても透析液ポンプは停止させることな く透析中と同様に運転を継続することができ、該 圧力すなわち圧力検知器 1 1 の検出する圧力の変 30 ポンプの停止・駆動を上配供給路の開閉弁と同期 させるための操作及び制御機構を省略できる利点 がある。

図面の簡単な説明

第1図は従来の透析装置の一例を示す図、第2 タをもとに最適の限外濾過圧を得るためのプログ 35 図は本発明の原理を説明するための血管とカニユ ーレを示す図、第3図は本発明の実施例を示す 図、第4図は同じく圧力検知器の実施例を示す図 である。

> A…… 騒体、1a, 1b……カニユーレ、2… 40 …血液ポンプ、3……透析器、4……透析液ポン プ、6 ·····流量調整弁(紋り手段)、10 b ······ モニターチューブ (圧力測定部)、11……圧力 検知器、12……目盛板(所定圧力値の設定部)、 13……測定針(圧力測定部)、14……第一設

14

定針(所定圧力値の設定部)、16……給入路、 17……排出路、18,21……電磁開閉弁(開 閉弁)、22……短絡パイパス流路。

